

南無阿弥陀仏は
私のいのち



平成28年
11月号

NO.
466

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 国分尚三氏)

記念日

結婚して一年が経過した。ささやかではあるが、ケーキを買ってきて夫婦でお祝いをした。結婚記念日、誕生日等、私たちは暮らしの中で、さまざまな節目を記念日と決めて祝っている。一般的に多くの記念日は、誰かの誕生日や、めでたいことを祝うことが目的とされているのではないだろうか。

その一方、仏教では先立って命終された方のご命日を、大切な日として受け取っている。真宗では、毎年親鸞聖人のご命日をご縁として、各本山、末寺において報恩講が勤修される。報恩講は、真宗門徒において一年の終わりであり、始まりでもあると教えられる。各家庭においても、亡くなった方のご命日を縁として、有縁の方々が集まり法要を勤める。

法要を勤めるとは、亡くなられた方を縁として、今生きている私たちが、普段なかなか触れることのない仏法に出遇わせていただくことである。仏法に出遇うとは、自己に出遇うことであると教えられる。自分の考えや知識に執着し、自分が一番正しいと信じて疑うことなく生活している。私たちはそのことにまったく無知であり、無意識である。そういう無知な私のすがたが照らし出されることによって、我が身を仏法に問うていく生活が、新しく始まるのではないだろうか。

今まで出遇うことのなかった自己に初めて出遇うことができる。そういう意味で命日は、先立っていかれた方から賜る、私にとつての大事な記念日となるのではないだろうか。報恩講を迎えるにあたり、誰のための法要なのか、あらためて考えさせられる。

(蓮井 邦宗 記)

「永代経」とは經典の名前ではなく、文字通り「永代に渡し、亡き人の仏縁によって聞法道場であるお寺を護持していただく」ご縁であります。亡き人のいのちの願いを、子々孫々まで伝えていきたいという思いに応えるお勤め、それが「永代経法要」であります。

私たち仏教徒にとって最も関心が高く、これがあるから手を合わせる生活が成り立つというもの、それが亡き人との関係であります。仏壇に参っても、墓参りをしても、先立つ方々に対して手を合わせているのではないのでしょうか。やはり、亡き人を敬い、亡き人を訪うという、先祖崇拜の気持ちが強いのでありましょう。

私たちは両親がいて、そのまた両親がいる。10代遡ると2048人の存在があり、1人でも欠けたら私の存在はありません。無数のご先祖からいのちが伝承されてきて、いま私のいのちが成り立っています。私よりも先にいろんなご縁があり、様々な営みが繰り返されて私のいのちに結びついているのです。文字通り、血脈であります。はたして私たちは亡き人を、どのように受けとめたらよいのでしょうか。

親鸞聖人にお尋ねしますと、亡き人を「諸仏」といただかれております。ご和讃に「諸仏の護念証誠は」とありますが、亡き人を諸の仏と拝んでおられます。諸仏とは、阿弥陀様の教えが諸の仏となられて

私を導き、教え、先導していただくお方々という意味であります。なかなか南無阿弥陀仏の教えを聞こうとしない私が、先立つ方が生死していく姿を、我が人生の師としていただく。この私に「仏法を聞けよ」、「南無阿弥陀仏の教えに遇って欲しい」と願いをかけてくださっている。その無数の存在を諸仏といい、そのよびかけを聞かせていただくのが永代経法要であります。

(聞き手 木村 専正)



日誌

- 9月17日 定例聞法会、社交ダンス練習会
混声合唱団「エコー」練習
- 9月19日～25日 秋季彼岸会
- 9月21日 秋季永代経法要
法話 脇阪 住職・山崎 哲
- 9月27日・28日 宗祖忌
- 10月1日 社交ダンス練習会
混声合唱団「エコー」練習
- 10月7日・8日 中興忌
- 10月8日 同行会 法話 大谷 義博
- 10月12日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元 師
- 10月15日 定例聞法会、社交ダンス練習会
混声合唱団「エコー」練習
- 10月16日 城東ブロック会聞法会
(金町ゲストハウス 参加者28名)

えこお志お礼

草加市	代田 勝子 様
滋賀県	光福寺 様
板橋区	木下 好江 様
逗子市	西村 千工 様
所沢市	片桐 珠子 様
台東区	飯高 多嘉子 様
流山市	高田 實 様
大田区	木口 耕一 様
大和市	齊藤 祐三 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

親鸞さんのことば

罪障功德の体となる

こおりとみずのごとくにて

こおりおおきにみずおとし

さわりおおきに徳おとし

『高僧和讃』

松井憲一

わたしたちは、自分を中心とした価値観で、情報や知識や人間関係を総動員して、思い通りに生活しようと日々努力しています。しかし、わたしたちが、そうしておれるのは、まど・みちおさんが「ぼくがここに いるとき ほかの どんなものも ぼくに かさなって ここに いることは できない」と、いわれる事実があるからです。わたしたちは、「ここに いる」だけで、それを支えてくださる多くのご縁があるからであって、そのご縁に大事にまもられているからです。しかし、それは同時に、わたしがここにいることで、他の人がここにかさなっておれないような、厚かましさにおい

て生きていることでもあります。

つまり、私たちは、この身を生きている限り、他人との関係で、お互いに「欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむところをおおく、ひまなくして（『一念多念文意』）対立していく罪障から逃れることができません。だから、罪障功德の体となる（罪や障りは、そのまま功德のもとになる）、罪障と功德は一つであると言われると、納得できません。それは、わたしがここにいるだけで、罪障の身であるということ素直に認めることができないからでありましょう。

70才の主婦が、新聞の投書で「友達には孫が6人いる。会うたびに成長ぶりを語り、自慢話をして孫のいない私をうらやましがらせてくれる。うれしそうに話すので、辛抱して聞いていた。ところが、孫たちのもろもろの行事のお祝はかなりの出費で、遊びに来たときの食事代、お小遣いなど「年金から出すのはしんどい」とぼやき始めた。いかげんにしてほしい。私は、愚痴を拾うごみ箱ではない」と書いておられました。お互いに、我が身の有り様に気づかないと、友人関係もやがて崩れていくのでありま

しょう。

わたしたちは、「わがみをたのみ、わがころをたのみ、わがちからをばげみ、わがさまさまの善根をたのみ（同）」ところで生きています。だから、自分が心得て関わっているつもりでも、相手にどういう影響を与えているかは、実際にわかりません。それで、親鸞聖人は、この和讃の一首前に、「無碍光の利益より 威徳広大の信をえて かならず煩惱のこおりとけすなわち菩提のみずとなる（無碍光の恵みによつて、わたしをたのみころがひるがえされて、すぐれた徳と平等という広大な他力の信心をいただくから、煩惱の水はとけて、そのままさとりの水となる）」と和讃されます。無碍光（阿弥陀仏の光）の徳がはたらくから、自分ではどうすることもできない煩惱もとけるといわれます。

自分では見えなかった罪障の身が、無碍光の智慧に呼び覚まされて、赤裸々になるのです。だから、ここにいることの罪が、そのまま智慧をいただく功德の内容になるのです。ここにいるおもさは、罪障の身があるがまに見据えて、この身を生きる智慧と力を与えてく

ださるのです。それは、無碍光に遇った罪障の自覚ですから、水が多ければ解ける水も多くなるように、罪障が多ければそれにつれて功德もまた多いのです。無碍光に照らされた罪障だけが、「罪障功德の体となる」と罪障を功德に転換して、罪障と功德は一つのものとして輝かすのです。無碍光に遇えば、無意味に思った苦や失敗や過ちや逆風も、転換されて「こおりとみずのごとくにて かわりおおきに徳おとし」と、乗り切る世界をいただくのです。



言葉の山門

見四水一

～境涯によって異なる物の見方～



この言葉は、唯識ゆいしきのものの見方で認識の主体が変
われば認識の対象も変化するものの例えであります。

同じ「水」を見る場合でも、見る心の違いによって、
又立場によって同じ対象物が異なつて認識され、四
つの様相に受けとめられることを言います。

人間にとつては普通の飲み水であっても、天人は
それを水晶の池、魚は自分の住みか、餓鬼がきにとつては
炎の燃え上がる血の膿うみの流れと見えます。一処四見いつしよけん、
一境四心いつきやうしんとの表現もあります。「酒」は百薬の長とす
る人、命を削るカンナ、般若湯と言つて智慧の水とす
る人。見る人によつて、薬になったり毒になったり
色々です。「あいにくの雨 恵みの雨」「手を打てば
魚餌と聞き 鳥は逃げ 女中茶と聞く猿沢の池」。

物事があるがままに見る。簡単そうで難しいこと
です。自分が見ている世界は、他人から見てもどのよう
に見えるでしょうか。同じ物を見ていても、気づかな
い面があるものです。自分のものさし・色眼鏡で相
手を見、量る、こんな私であります。

人は皆、生まれ育つた環境・受けた教育・経験し
てきた人生・考えてきたことなど、さまざまです。

(脇阪 義幸 記)

公演『いのち』光と闇のご案内

信州伊那谷を拠点として活動している人形師 飯田美千香いいだみちか
(百鬼ゆめひな)です。自分で等身大人形を作り、一緒に舞
台に立って演じるという、ちょっと珍しいスタイルの演劇をし
ています。お寺や神社、ホールをはじめ、国内や海外の演劇・
人形劇のフェスティバルなどで上演する機会をいただいてお
ります。西徳寺さんとは能楽師 安田登さんのプロデュースに
よる舞台「イナンナの冥界下り」に出演したことをきっかけに
ご縁を頂きました。

そして今回の公演「いのち」光と闇 で合同企画しており
ます。蜜月稀葵みつぎまれあさんと同じく「イナンナ～」で共演、役の上で
蜜月さんが光であれば私は闇という表裏一体の間柄で、その
名残のままに蜜月さん率いるダンス公演は「LIGHT」(光)、人
形公演は(闇)の世界として『蛇恋』じゃれんという演目をご覧頂きます。

道成寺で知られる安珍清姫の伝説を元にした、恋しい男を
どこまでも追いかけてゆくうちに、その執念で鱗が生え、角
が生え、ついには蛇となってしまう娘の妖しくも哀しい物語
を人と人形が演じます。どちらが人形でどちらが人?と言う不
思議な世界のひとときをお楽しみください。



◆期日 平成28年12月1日(木)

第1部 14:30 開場 15:00 開演 (2部公演。
第2部 18:30 開場 19:00 開演 同じ内容になります)

◆会場 西徳寺本堂

◆入場料 前売3,500円(税込)/当日4,000円(税込)
全席自由 各公演につき申込み順 先着50名様限定
予約申込みは西徳寺まで

TEL 03-3875-3351 (担当: 高橋)

◆演目

・『蛇恋』 百鬼ゆめひな 飯田美千香(人形師)
・『LIGHT』 光のありか、懐かしいかおり
蜜月稀葵(舞踊家)、藤原亜美(舞踊家)、
カマレホウジュ(ダンスカンパニー)、
香西克章(指揮者)&混声合唱団 RARA KORUSO、
及川景子(アラブオリエンタルバイオリニスト)、
アブダッラー(ドラブッカ奏者)、加藤吉樹(ウード奏者)

第 325 号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

～法語カレンダーに聞く～ (2016年10月)

「まどいの眼には見えねども ほとけはつねに照します」

最近大きな問題として、連日メディアで取り上げられているのが、築地市場の豊洲への移転問題である。テレビを見ている、誰が本当のことをいっているのかわからない。それぞれが自分は間違っていないと主張し、責任を逃れることに必死になっているようにしか見えない。アメリカの大統領選も、相手の批判ばかりが目立って、何か大事なことが見失われているように思える。

これは決して他人事ではなく、私たちの日々のありかたを考えてみても、同じようなことがいえるのではないだろうか。家庭や職場、友人関係においても、いつも自分の考えが正しいと思い込み、その思い込みの色眼鏡で相手を決めつけ、批判している。私たちの眼は外ばかり向いていて、内(自分自身)を顧みることができない。

本来私たちは誰とも比べることのできない、かけがえのないいのちをいただいているはずなのに、私たちの心は常に他と比較し、優劣や善悪に執着した生き方しかできない。まどいの眼とは、他でもない、この自己に暗い私自身をいいあてているのである。

阿弥陀仏の光明は、そんな私たちを見捨てず、あきることなく常に照らし続けてくださる。光明に照らされるとは、自分勝手に生きている私のいのちが、実ははかりしれない種々様々ないのちに支えられて生かされている。そのことに眼を開かせるのである。その時初めて、誰でもない自分自身の生き方を、仏法に聞いていく生活が始まるのではないだろうか。

(蓮井 邦宗)

次回聞法会ご案内

日 時 平成 28 年 12 月 21 日(水) 午後 1 時～ 3 時
場 所 西徳寺 星月の間
法 話 法語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)
「世のもろびとよみなともに このみさとしを信ずべし」
最高顧問 大谷 義博
蓮井 邦宗

※11月、本山佛光寺御正忌報恩講団体参拝旅行のため、婦人会旅行は中止となります。

ひとこと

今年の台風はトリプルで上陸しました。と共に、前線の停滞で梅雨の様な状態が長く続き、頭痛の人が多かった様です。原因は「気圧の変化」とか、「雨」「臭い」でもなるそうです。

(斉藤 悦子)

掲 示 板

平成28年11月

5日(土)・6日(日)

12日(土) 午後6時

13日(日) 午後2時

15日(火) 午後7時

16日(水) 午後1時半

17日(木) 午後4時

19日(土) 午後1時半

午後3時15分

20日(日) 午後2時

27日(日)・28日(月)

報恩講(両日布教使 高橋 速門師)

同行会 法話 脇阪住職

城西ブロック会聞法会(中野商工会館)

仏教青年会報恩講 講師 大谷 義文師

『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師

責任役員会・総代会

定例聞法会

混声合唱団「エコー」練習

城北ブロック会聞法会(大塚・大和田)

『本山佛光寺御正忌報恩講』団体参拝旅行



被災地、熊本・益城の義文さんの話を聞こう! 仏教青年会報恩講のご案内

熊本地震から半年が経ちましたが、被災地はまだまだ凄まじい地震の爪痕が残ったままになっています。仏教青年会では、毎年お勤めしている青年会報恩講に、被災地であり震源地でもある、熊本県益城町で阿弥陀寺の代表をされている大谷義文師をお招きすることとなりました。実際に目の当たりにされた現実を通して聞こえてきた教えをお話いただくことになっております。

今年は門戸を広げるという意味もあり、本堂で勤めることになりました。ぜひ大勢の方々と共に、今しか聞くことのできない話を聴聞したいと思っております。

日 時 平成28年11月15日(火) 19時より20時半まで

場 所 西徳寺本堂

※会場に募金箱を設置いたします

講 師 大谷 義文師

講 題 「悲しみと共に生きる」

どなたでもご参加いただけます。お申し込みは不要です。途中参加でもかまいません。どうぞ誘い合わせの上で参加ください。

(仲井 真裕 記)



聞法会だより 城東ブロック会

10月16日に城東ブロック会聞法会が金町ゲストハウスにて開催されました。金町は初めての開催地であります。会員さんである中村正治さんの呼びかけによって7名の初参加の方が足を運んでくださり、たいへん賑やかな会となりました。

会長からは「聞き続けることが大切だ」と述べられ、竹内評議員会会長からは「仏法は生きている人のためのものである」と力強いお言葉をいただきました。

次回は来年2月5日・市川 うえだ別館の予定です。たくさんのご参加、おまちしています。(高橋 淳 記)



編集後記

10月16日、城東ブロック会の聞法会が、葛飾区・金町においては初めての開催となりました。この施設はご門徒さんに紹介していただきましたが、とても因縁の深い場所でありました。実は初参加の方が数年前ご家族を亡くされ、葬儀を営まれた場所でもあったのです。

亡き人の仏縁がきっかけではありましたが、他にも目には見えない縁によって開催されたこの度の聞法会を通じて、すべては私のはからいを超えて営なまれているのが人生であることに気づかせていただきました。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com